

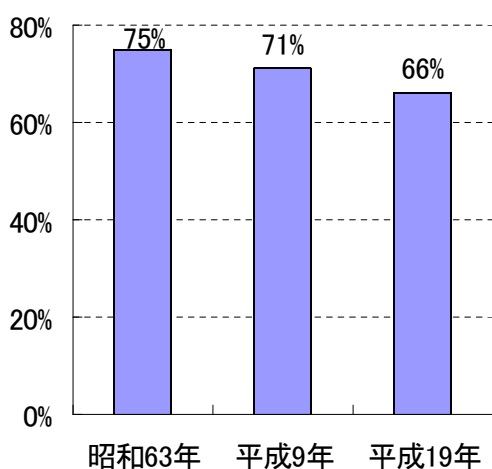
9 牛乳・乳製品

(1) 現状と課題

生乳の国内生産量は802万トン（平成19年）であり、牛乳・乳製品の自給率としては、66%（平成19年）となっており、漸減傾向にある。この背景として、国内で生産される生乳は、飲用牛乳等（459万トン）、脱脂粉乳・バター等（196万トン）、生クリーム・チーズ等（147万トン）に仕向けられているが、少子高齢化による消費人口の減少等の構造変化に加え、ミネラルウォーター等の他飲料との競合等のため、仕向け量の大きい飲用牛乳等について需要が減少する中、需要の伸びている乳製品の輸入が増加していることがある。輸入乳製品は、生乳換算で402万トン（生乳換算）で、そのうちチーズが約7割を占めており、こうした需要構造の変化に対応した牛乳・乳製品の供給体制を構築することが課題となっている。

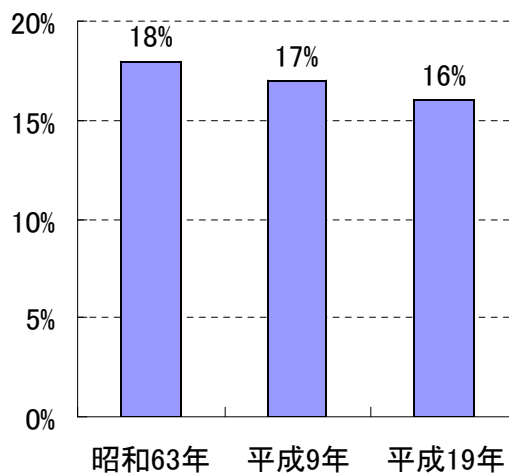
乳業メーカーが製造した牛乳・乳製品は、そのまま消費者に供給されるものもあるが、さらに、それを原料として二次製品に加工する非乳業の食品製造業者等を経由して消費者に供給されるものもある。特に、これら非乳業メーカーでは、輸入のチーズや調製品等を原料として商品（ピザなど）を製造することも多いことから、乳業メーカーが中間事業者として非乳業メーカーに国産乳製品の供給を進めることで、国産乳製品の利用拡大を図ることが重要である。

図9-1 牛乳・乳製品の自給率の推移



資料：農林水産省「食料需給表」

図9-2 チーズの自給率の推移

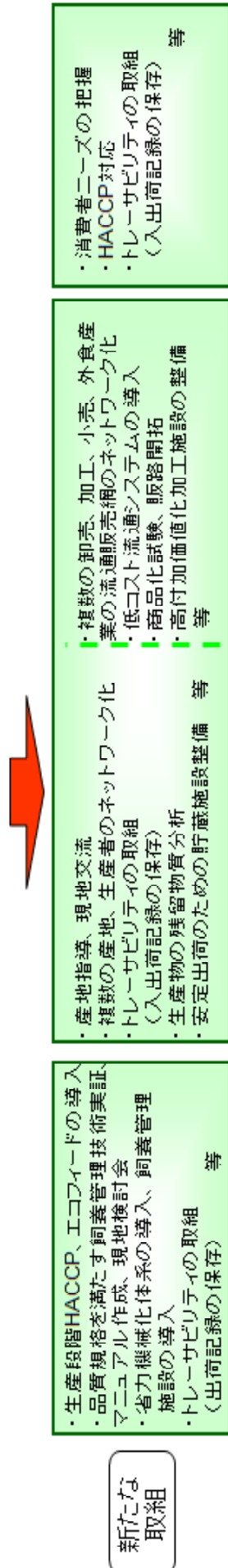
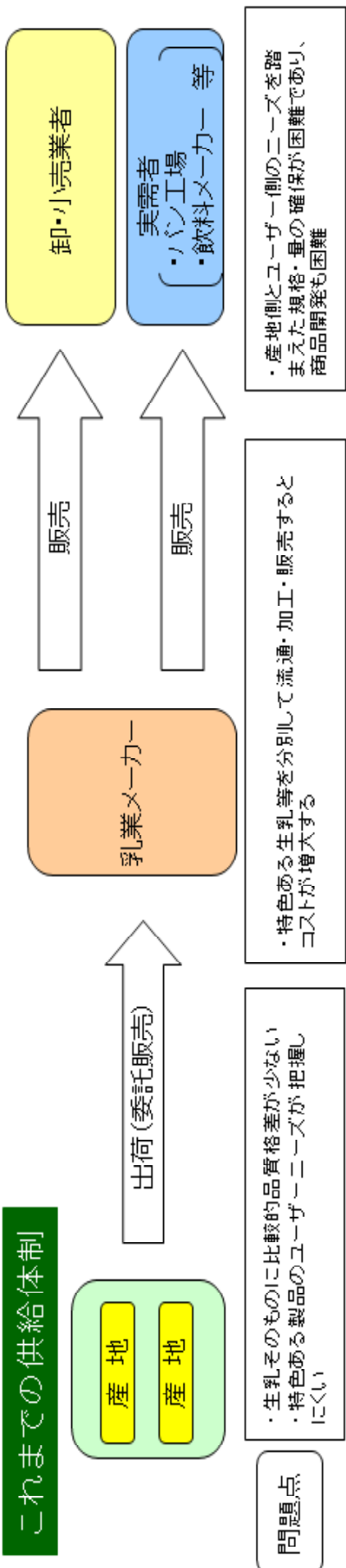


資料：農林水産省「チーズの需給表」

(2) 今後の取組方向

国産乳製品の供給力を高めるため、現在チーズ工場の新増設により加工品の増産が進められているが、さらに輸入品との差別化を図るための商品開発や、実需者のニーズに対応した特色ある牛乳・乳製品の生産・販売に向けた生産者と乳業メーカー等との連携強化を支援する等の取組が必要となっている。

畜産物（牛乳・乳製品）



これまでの供給体制に加え、受注生産など連携強化による供給体制の展開

